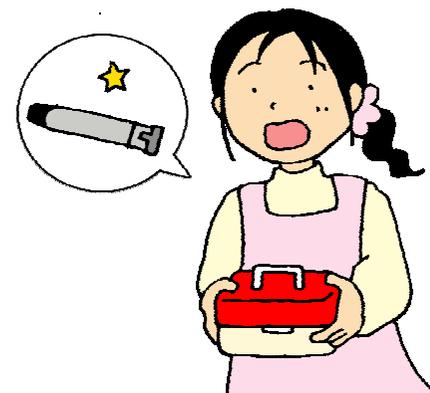
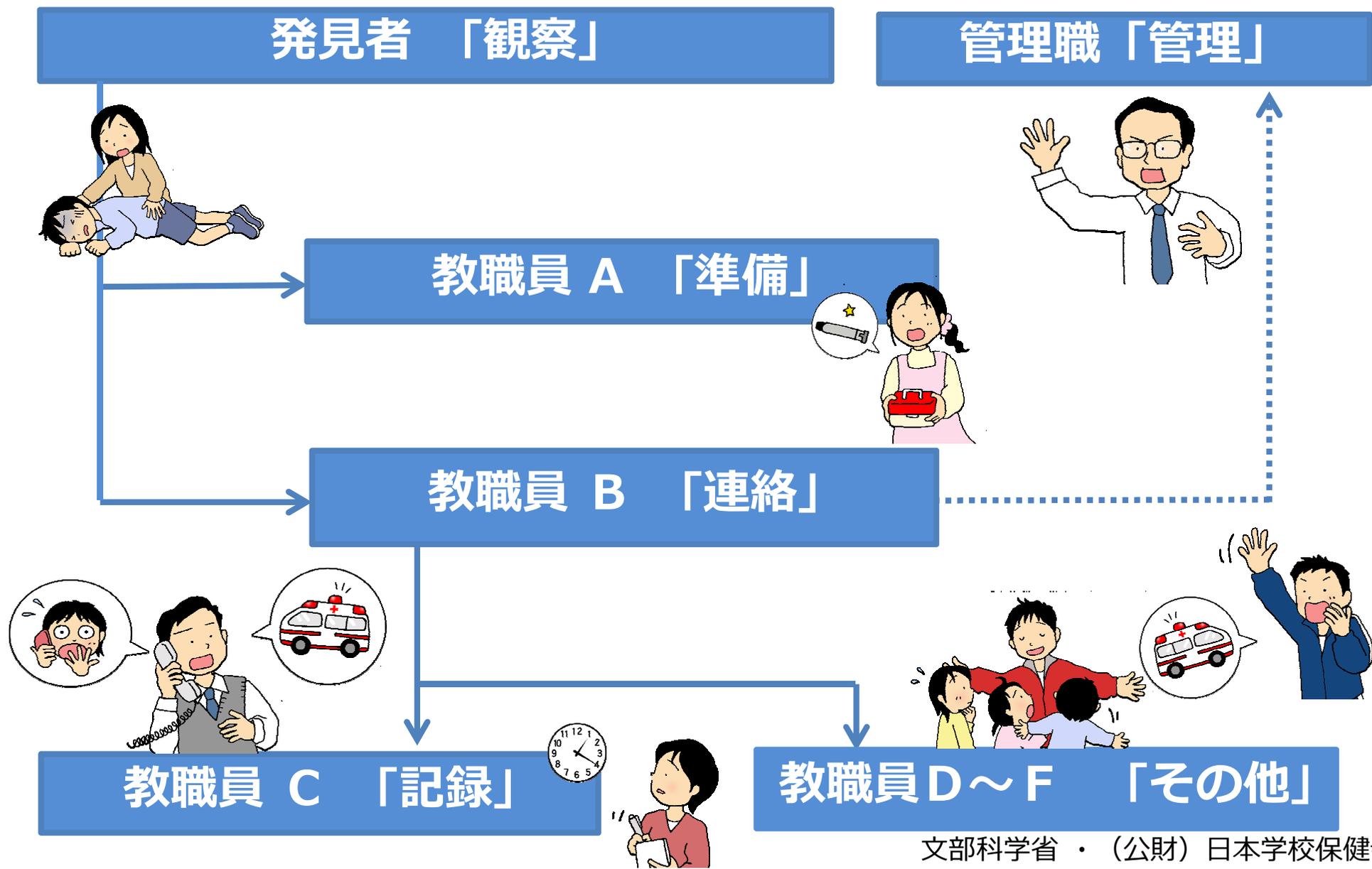


緊急時の対応



学校内での役割分担



文部科学省・(公財)日本学校保健会

東京都:「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」一部改変し、引用

学校内での役割分担

発見者「観察」

- 子供から離れず観察
- 助けを呼び、人を集める
- 教職員A、Bに「準備」「連絡」を依頼
- エピペン®の使用または介助
- 薬の内服確認
- 心肺蘇(そ)生やAEDの使用



管理職「管理」

- それぞれの役割の確認及び指示



教職員 A 「準備」

教職員 B 「連絡」

教職員 C 「記録」

教職員 D～F 「その他」

学校内での役割分担

発見者「観察」

教職員 A 「準備」

- 「緊急時対応」を持ってくる
- エピペン®の準備
- AEDの準備
- エピペン®の使用または介助
- 心肺蘇(そ)生やAEDの使用

管理職「管理」

教職員 B 「連絡」

- 救急車を要請する (119 番通報)
- 管理者を呼ぶ
- 保護者への連絡
- さらに人を集める(校内放送)

教職員 C 「記録」

- 観察を開始した時刻を記録
- エピペン®を使用した時刻を記録
- 内服薬を飲んだ時刻を記録
- 5分ごとに症状を記録

教職員 D~F 「その他」

- ほかの子供への対応
- 救急車の誘導
- エピペン®の使用または介助
- 心肺蘇(そ)生やAEDの使用



緊急時の対応

- 発見者 = 観察者
- 子供から離れず観察
 - 助けを呼ぶ
 - 緊急性の判断
 - エピペン®、AEDを指示

アレルギー症状がある（食物の関与が疑われる）

原因食物を食べた（可能性を含む）

原因食物に触れた（可能性を含む）

呼びかけに反応がなく、呼吸がなければ、心肺蘇(そ)生を行う

<緊急性が高いアレルギー症状>

全身の症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくい
- 唇や爪が青白い

一つでもあれば

呼吸器の症状

- のどや胸が締め付けられる
 - 声がかすれる
 - 犬が吠えるようなせき
 - 息がしにくい
 - 持続する強いせき込み
 - ぜーぜーする呼吸
- (ぜん息発作と区別できない場合を含む)

消化器の症状

- 我慢できない腹痛
- 繰り返し吐き続ける



緊急性が高いアレルギー症状があるか、5分以内に判断

緊急性が高いアレルギー症状への対応

チームワークが大切

- ・ 救急車を要請（119番通報）
- ・ ただちにエピペン[®]を使用
- ・ 反応がなく呼吸がなければ、心肺蘇(そ)生を行う → AEDの使用
- ・ その場で安静にする **立たせたり、歩かせたりしない！**

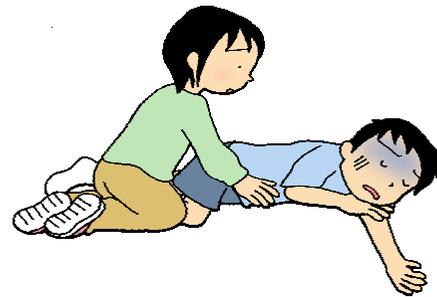
＜安静を保つ体位＞

ぐったり、
意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため、あお向けで足を15～30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく
あお向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後によりかからせる

- ・ その場で救急隊を待つ

エピペン[®]の使い方

① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開けエピペン[®]を取り出す

② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを下に向け、利き手で持つ

“グー”で握る！

③ 安全キャップを外す



青い安全キャップをはずす

④ 太ももの外側に注射する



太ももの外側に、エピペン[®]の先端(オレンジ色の部分)を軽くあて、“カチッ”と音がするまで強く押しあて、そのまま五つ数える
**注射した後すぐに抜かない！
押しつけたまま五つ数える！**

⑤ 確認する



エピペン[®]を太ももから離しオレンジ色のニードルカバーが伸びているか確認する

伸びていない場合は「④に戻る」

オレンジ色のニードルカバーの先端は、注射針が出てくる場所です。絶対に指や手等で触れたり、押したりしないでください。

エピペン[®]の使い方

介助者がいる場合



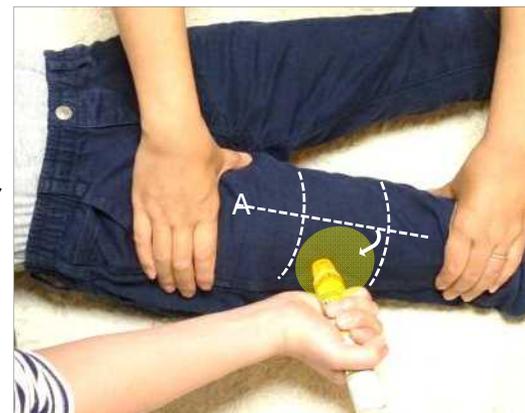
介助者は、子供の太ももの付け根と膝を しっかり押さえ、動かないように固定する

服の上からも注射できますが、注射部位を触って、縫い目がないこと、ポケットの中に何も無いことを確認しましょう。

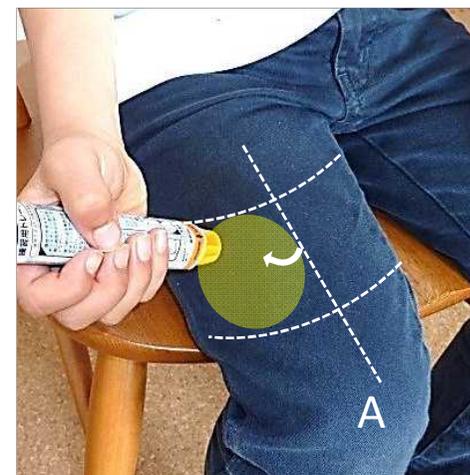
注射する部位

- 衣類の上から、打つことができる
- 太ももを三等分したかつ真ん中(A)よりやや外側に注射する

あお向けの場合

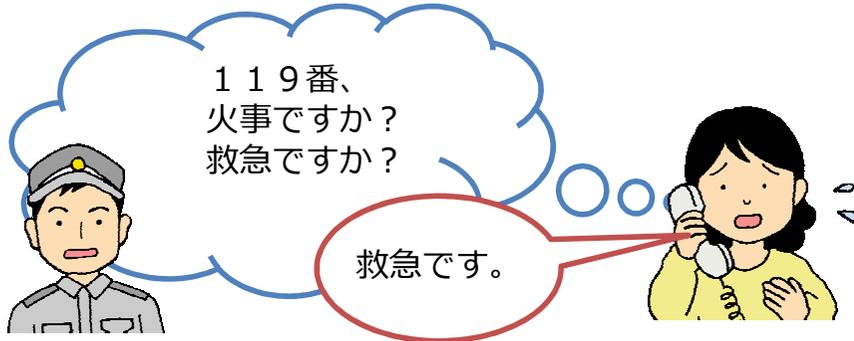


座位の場合

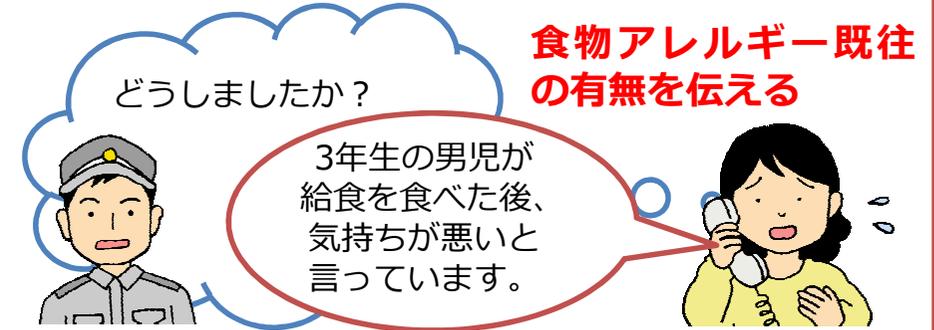


救急要請（119番通報）のポイント

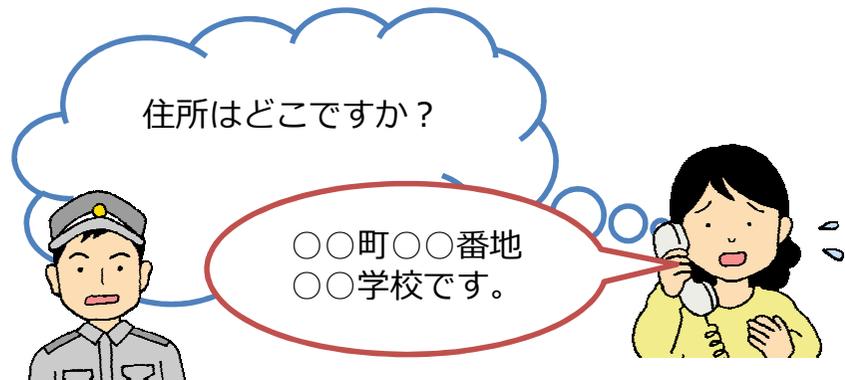
① 救急であることを伝える



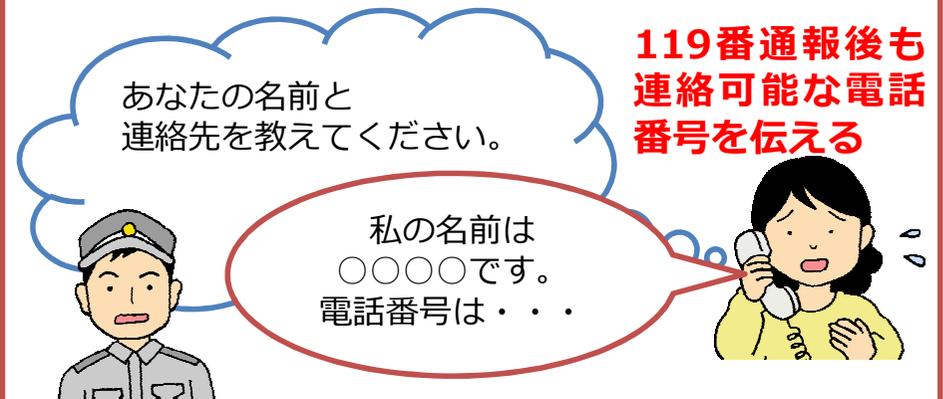
③ 「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」を分かる範囲で伝える



② 救急車にきてほしい住所を伝える



④ 通報している人の氏名と連絡先を伝える



※ 救急隊から、その後の状態確認などのため、電話がかかってくることもある

- ・ 通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく
- ・ 必要に応じて、救急隊が到着するまでの応急手当の方法を聞く

文部科学省 ・ (公財) 日本学校保健会

東京都：「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」一部改変し、引用